



令和6(2024)年度  
沖縄平和啓発プロモーション事業

# うむい

つたえる・つなげる・のこす

報告書

 沖縄県

# ～わたしの平和～





📷 朗読 磯崎主佳さん（JICA国際協力・交流フェスティバルにおいて絵本「いただきます」朗読の様子、19ページご参照）

---

## はじめに

---

### 平和を学び・想像し・考える

沖縄県内や県外での出前授業やイベントの開催等において、様々な方々とのパートナーシップにより、「対話」とおして共に考え、作っていくことを大切にしました。

「平和の大切さ」を写真や歌から学び、朗読や追体験から感じ、想像しながら、「あなたが思う平和」「あなたにできること」を一緒に考えた取組でした。

本報告書は、本事業を通じて学んだことを、次世代へ継承したいと願い、また授業等で活用されることを願って作成しております。

ダイジェスト版報告書やホームページもございますので、併せてご覧ください。



事業HP

## 事業の視点

# 沖縄平和啓発プロモーション事業

本事業は、これまでに蓄積された沖縄戦体験談や資料を活用して、沖縄戦の実相や歴史的教訓を正しく次世代に継承し、平和を希求する「沖縄のこころ」を広く伝えるため、県内外で児童生徒等を対象としたワークショップやシンポジウムなどを実施しました。事業の内容を、以下、5つの視点で報告します。

### 次世代への継承

平和教育の授業やプログラムを通し、沖縄の経験を届け、対話の時間を作りました。

### イベントを通して出会う

子どもから大人まで、各層に届く場面・機会を考え県内外で実施しました。

### シンポジウム等を通して県外へ発信

沖縄のことを知ってもらうと同時に、全国の皆さまとの戦争や平和を考える時間を設けました。

### 平和教育教材

次世代の継承のためにも、教材やカリキュラム開発が重要であると考え、教育者の学びの場づくりを大事にしました。

### 広報活動

平和を希求する「沖縄のこころ」を、県内外の多くの方へ発信し続けました。



# 目次

## 第1章 次世代への継承

- 7 平和教育プログラム内容
- 8 “数字”にみる平和教育の意味
- 9 学校向け平和教育実施内容
- 11 平和へのうむい（思い）
- 13 写真で振り返る事業
- 14 平和教育の時間に主に使用した教材紹介

## 第2章 イベント・対話を通して出会う

- 17 平和朗読講習会
- 19 おきなわ国際協力・交流フェスティバル2024  
平和絵本読み聞かせ&パネル展示
- 21 RBCiラジオ特別企画 まるごと1日平和  
～戦後80年に向けて考えようスペシャル～
- 23 沖縄県立中部農林高校×ハワイ沖縄県系人  
平和オンライン交流会

## 第3章 シンポジウムを通して県外へ発信

- 27 「沖縄のこころ」平和啓発シンポジウム
- 28 第1部 うたらな平和
- 29 第2部 平和をつなぐ対話の場

## 第4章 平和教育指導者養成

- 33 80年前の首里・那覇を学ぶフィールドワーク
- 35 戦跡フィールドワーク in 読谷
- 37 戦後復興を支えた沖縄移民から学ぶ平和教育
- 39 戦後80年に向けた平和学習プログラムづくり
- 41 教材①「紙芝居をつくろう」
- 43 教材②「あなたは何を選択する？」
- 45 教材③「バックの持ち主を探せ!」
- 47 那覇・首里を学ぶフィールドワーク 感想
- 49 那覇市フィールドワークマップ
- 51 戦後80年平和教育に関するアンケート調査結果

## 第5章 広報活動

- 57 「パネル展」展示物
- 60 戦後80年ポスター
- 61 新聞掲載記事
- 63 メディア掲載
- 64 沖縄平和プロモーション事業アーカイブ  
／協力団体

## ごあいさつ

- 2 はじめに
- 65 おわりに



## 第1章 次世代への継承

---



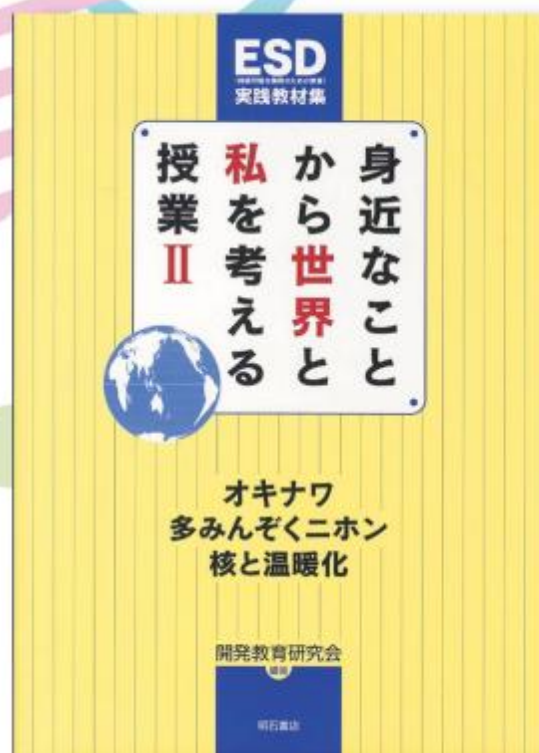
平和教育の授業やプログラムを通して、  
沖縄の経験を届け、対話の時間を作りました。



## 平和教育プログラム内容

### 第1章

対象者の年齢、授業の前後のねらいや目指したい方向性を大事にしながら、学校の要望に寄り添い実施しました。また、県外においては、沖縄を知ってもらうためのクイズも併せて取り入れました。主に以下の2冊の教材を活用しました。



### 世界の難民問題から 沖縄戦までの学び

#### ねらい：

世界の難民問題を導入して学ぶ。シミュレーション体験を通し、沖縄戦当時の戦争避難民として住む場所を追われることを経験する。戦争で命を落とした方々の経験、つながれた命の意味を考える。

#### 手法：

フォトランゲージ、シミュレーション体験、歌や体験記の朗読などを通して、自分はどんな未来を描いていけるのか話し合い、全体共有を行う。

対象者：小学校4年生～大人

時間：90～120分



### 沖縄移民の学び

### ～ハワイから豚がやってきた～

#### ねらい：

沖縄移民・世界のウチナーンチュが海外に多く存在する沖縄の歴史がある。沖縄戦前後に、海外に渡ったウチナーンチュたちが、沖縄戦で様々なものを失った沖縄を救おうと救援物資を送る活動を通して、戦後復興の様子を学ぶ。

#### 手法：

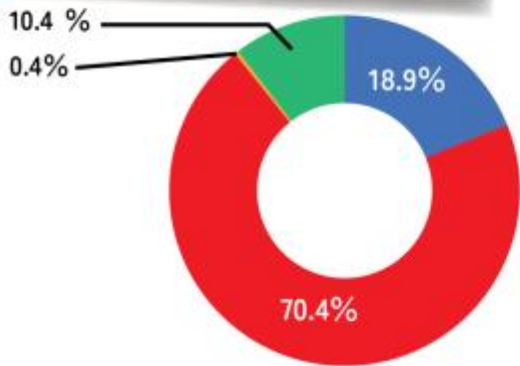
フォトランゲージ、映像視聴、体験記を読む、グループでの話し合い、発表。

対象者：小学校低学年～大人

時間：50～120分

# “数字”に見る平和教育の意味

## 1. 世界は平和だと思えますか？

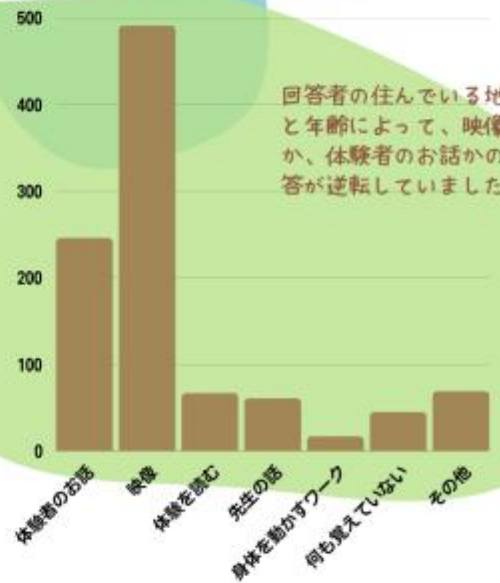


回答者の約7割が平和ではないと回答している。

● はい ● いいえ ● 分からない ● その他

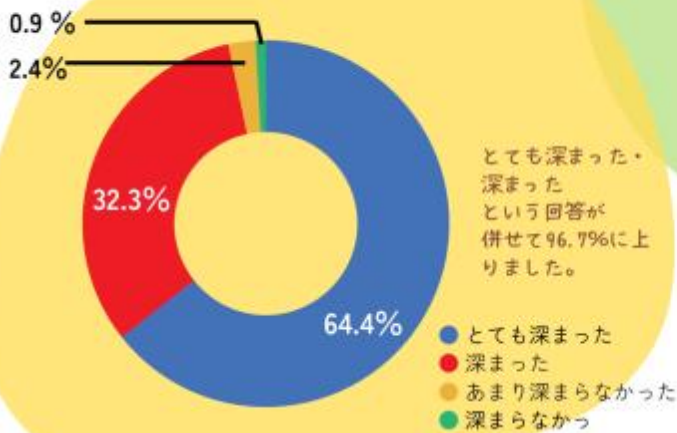


## 2. 戦争や平和を学ぶことで、印象に残っているものは何ですか？



回答者の住んでいる地域と年齢によって、映像か、体験者の話かの回答が逆転していました。

## 3. このワークショップを通して、平和への理解は深まりましたか？

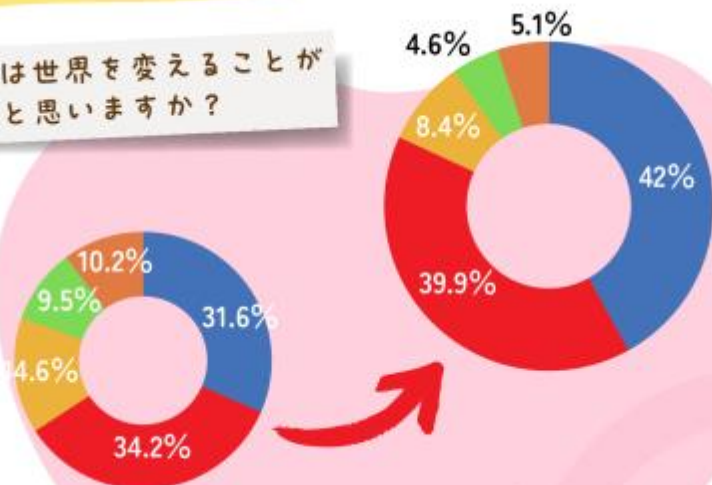


とても深まった・深まったという回答が併せて96.7%に上りました。

● とても深まった  
● 深まった  
● あまり深まらなかった  
● 深まらなかった

## 4. あなたは世界を変えることができますか？

● できると思う  
● 何かはできると思う  
● あまりできないと思う  
● できないと思う  
● 分からない



できると思う・何かは出来ると思う  
約65%→81% (16%上昇)

# 学校向け平和教育実施内容

## 第1章

### ○県外出前授業実施

名張市立赤目中学校(三重県)

沖縄戦

～ガマのワークショップ～

- 実施日：7月1日
- 学年：1年生
- 人数：98人

名張市立名張中学校(三重県)

沖縄戦

～ガマのワークショップ～

- 実施日：7月1日
- 学年：2年生
- 人数：170人

神戸弘陵学園高等学校(兵庫県)

沖縄戦

～ガマのワークショップ～

- 実施日：11月11日
- 学年：全生徒(1～3年生)
- 人数：600人

### ○オンライン実施

近江八幡市立武佐小学校(滋賀県)

沖縄戦

～ガマのワークショップ～

- 実施日：9月20日
- 学年：5年生
- 人数：24人

近江八幡市立武佐小学校(滋賀県)

沖縄戦

～ガマのワークショップ～

- 実施日：9月20日
- 学年：5年生
- 人数：31人

県内外の学校現場に平和学習を届ける事業となっております。沖縄戦だけでなく世界各地の難民問題、世界のウチナーンチュの経験などを伝えています。

今年度は教員への教材サポートやオンライン授業も行い、県内外の小中高14校の計2,393名の児童・生徒へプログラムを実施しました。

プログラム参加者

合計 **2,393** 人

### ○平和教育指導者養成講座

東京大学

島嶼における戦争の記憶継承  
(沖縄からの平和教育)

- 実施日：10月26日





## ○県内出前授業実施

沖縄県立泊高等学校 夜間部

**難民から沖縄戦**

**人の移動から考える平和**

- 実施日：6月19日
- 学 年：全生徒(1～4年生)
- 人 数：57人

那覇市立松川小学校

**子どもと戦争～対馬丸～**

- 実施日：6月21日
- 学 年：3～6年生
- 人 数：350人

うるま市立具志川中学校

**難民から沖縄戦**

**人の移動から考える平和**

- 実施日：6月24日
- 学 年：2年生
- 人 数：250人

竹富町立 黒島小中学校

**沖縄戦と戦争マラリア**

- 実施日：6月27日
- 学 年：小学1年生～中学2年生
- 人 数：22人

石垣市立登野城小学校

**世界のウチナーンチュと平和**

- 実施日：6月27日
- 学 年：6年生
- 人 数：119人

宮古島市立北中学校

**難民から沖縄戦**

**人の移動から考える平和**

- 実施日：7月11日
- 学 年：3年生
- 人 数：130人

恩納村立恩納小学校

**人生開拓ゲーム**

**沖縄ポリビア移民と沖縄戦**

- 実施日：3月3日
- 学 年：6年生
- 人 数：48人

沖縄県立那覇高等学校

- 学 年：1年生
- 人 数：40人

沖縄県立北中城高等学校

- 学 年：1年生
- 人 数：38人

沖縄県立真和志高等学校

- 学 年：全生徒(1～3年生)
- 人 数：416人

○教材サポート

授業後

# 平和へのうむ

児童生徒・  
学生さん

他国の言語を覚えて、  
困っている外国人がいたと  
きに助けてあげたい。(良  
い関係をきずくため)  
(松川小学校 生徒)

世界を完全に变えること  
は難しいかもしれないけ  
ど、募金や、平和につい  
て真面目に考えてみたり、  
何かしら自分なりに  
できることはしていきたい  
と思った。  
(名張中学校 2年生)

生きていくことの難しさ、自分  
が正しいと思う選択をしても結  
果どうなるか分からないという  
ことがシミュレーションを通じ  
て理解できました。米兵の助か  
るという言葉信じられなかつ  
た日本の異常さも今日理解でき  
て良かったと思います。  
(泊高校 (夜間部) 生徒)

私は、これから日常での小さな喧嘩をなくし、  
自分やみんなの平和な日常を守ることに挑戦したいです。  
(松川小学校 生徒)

世界の難民は日本の人口並  
みにいることがわかった。  
(泊高校 (夜間部) 生徒)

戦争の怖さがよく分かった。  
ロシアやイスラエルの  
戦争を世界中の人々で  
止めていきたい。  
(赤目中学校 1年生)

自分が戦争中に生まれてたら、いろんな  
決断をしないと生きていくの  
は難しいと思った。自分にできることは  
実際に戦時中に何があったのかを知って  
みんなに伝えるのができると思った。  
(黒島小中学校 生徒)

今まで沖縄だけで復興をして  
きたと思ってきたけど、ほか  
の国の協力もあつての現在の  
平和なんだなと感じることが  
できました。  
(登野城小学校 6年生)

## い（思い）

命の尊さを詳しく学び、人が嫌がるようなことをしない。平和の大切さについてももう一度学ぶ。目を背けない。  
（名張中学校2年生）

今回を通して、サボリ気味だったピアノなどを、後悔する前にもっと挑戦してみたいし、平和のために話を語り継ぐこと、細かいことでの言い争いを減らしていこうと思いました。今後、このような事が起きてはならないということも心に刻み、普段の日常を大事にし、日々に心から感謝していこうと感じました。  
（具志川中学校2年生）

沖縄に行って戦争で亡くなった人のお墓に行ってお参りをしたい  
（赤目中学校1年生）

今日は、沖縄戦で集団死をした人の約8割が小学生くらいの小さい子ということを知り、驚きました。もし私が沖縄戦のときに生きていて、今日みたいにどちらかのガマに行かないといけないなどの選択が迫ったとき、一つ一つの自分の選択が命に関わると思うと、とても怖いなと思いました。今、世界のどこかで争いが起きていて、その難民の人達も大変な思いをしていると考えたら、とても悲しくなります。今日学んだこと以外のことをもっとネットで調べたり、少しでも自分で寄付をして大変な思いをしている人たちのことを助けたいと思いました。  
（具志川中学校2年生）

自分1人で世界を変えることは無理かもしれないけどこの話しをいろんな人に話して広め、みんなで世界を変えることはできる。だから、いろんな人に話しを伝える  
（赤目中学校1年生）

完全な平和は難しいかもしれないけど人々が協力したらとても大きな平和の輪ができるんじゃないかなと思いました。  
（登野城小学校6年生）

## 写真で振り返る事業

### 第1章

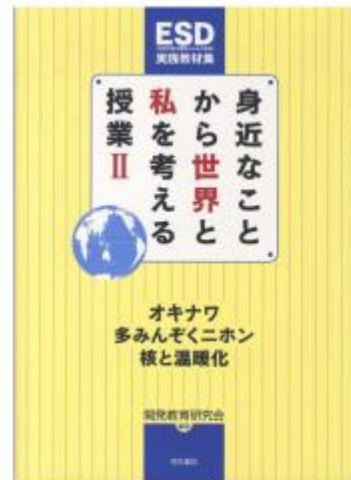


### 📷 各列左写真からの説明

- 1 具志川中学校 出前授業
- 2 那覇・那覇フィールドワーク
- 3 平和朗読講習会
- 4 読谷村フィールドワーク
- 5 ポリビアフィールドワーク
- 6 黒島小中学校出前授業
- 7 おきなわ国際協力・交流フェスティバル2024に参加した玉城デニー知事

# 平和教育の時間に主に使用した教材紹介

沖縄における「平和教育」の教材は、「沖縄戦」を起点とした内容が多く、指導の時期も6月23日前後に集中する傾向があります。この点については、学校現場の教員の皆さまから課題として挙げられていました。また、主体的に考え行動する力を育む学びや、SDGs、持続可能な未来に向けた教育の必要性を求める声も多く寄せられています。そこで、今回は以下の3つの教材を基本に、地域の新聞記事や読谷村が発行した書籍を活用しました。さらに、読谷村出身の歌手・玉城千春さんが中学生と共に平和教育の一環として制作した楽曲「Hope Dream Future」、でいご娘さんの「艦砲め喰え残さー」、そして沖縄テレビが放送した慰霊の日に関するニュース映像も、ワークショップの教材として取り入れました。



開発教育教材「沖縄から考える平和」（身近なことから世界と私を考える授業II / 明石書店）

本教材を作成する際、当事者でない私たちが沖縄戦を教材化することについて何度も話し合い、沖縄に足を運び、資料収集に努め、実際に授業をして検討を重ねてきた。これからも当事者や実践者の声に耳を傾けていきたいと願っています。



沖縄移民・世界のウチナーンチュ教材「レッツスタディ!世界のウチナーンチュ」（沖縄県発行）

教材のなかの、ハワイ移民と豚の物語を活用した。戦前・戦後と沖縄からの移民者がなぜ海外に移民しなければならなかったのか、沖縄戦前後の沖縄や戦後復興の歴史を学ぶ教材として活用しました。



読谷村史編集室編「読谷村の戦跡めぐり」（読谷村発行）

読谷村における米軍上陸の史実、チビチリガマ、シムクガマの解説としての活用を行いました。読谷村の中田耕平さんの解説とともに、本書籍を中心にめぐりました。

「沖縄のこころ」を伝える教材



艦砲め喰え残さー (でいご娘)

読谷村楚辺出身の比嘉恒敏さんが作詞・作曲した曲から、沖縄の人々が経験した戦中～戦後の苦悩を学ぶ教材として活用しました。

沖縄テレビ「戦世から79年 慰霊の日 犠牲者を偲び不戦の誓い次世代へ（沖縄テレビ）2024/6/24」



出前授業を実施する際に、沖縄の人々が慰霊の日をどのような思いをもって過ごしているのかを伝えるために活用しました。



## Hope Dream Future

作詞：玉城千春、沖縄アミークスインターナショナル中学校5期生  
作曲：玉城千春

未来を選ぶ権利がある だけど  
まだ 子どもで無力だ それでも あきらめたくないんだ  
ある人はいふ 死を選んでも そのギリギリまで  
彼らなりの希望があった 強い意志だと  
遠い詰められたとしても 何か 変わることを祈って 消え去った命  
平和願って 生きていたくて  
この地球は 優しく強くて 大きな愛で 語りかけるんだ  
未来を築かなきゃ 手を取れ合って  
言葉なんて伝わらなくとも 心でつながると 信じているんだ  
希望と夢いだいて みんなの笑顔で  
僕らは あきらめない 自分をあきらめない 同じ空の下 見上げれば  
つながるよ LOVE LOVE LOVE  
……続く

「Hope Dream Future」プロモーション映像  
この映像も授業の中で活用させて頂きました。  
ぜひ、ご覧ください。





## 第2章 イベント・対話を通して出会う

---



子どもから大人まで、各層に届く場面・機会を考え  
県内外で実施しました。



届けた、うむい(思い)

昨年に引き続き、沖縄戦を未来の世代に伝えるために「平和朗読」講習会が開催されました。この講習会では、仲村美涼アナウンサーと三原楓花アナウンサーを講師としてお招きし、朗読素材の見つけ方、技法、練習から発表、講師からの講評までを学びあう機会となりました。



第2章

# 平和朗読 講習会

日時：2024年9月21日（土）

時間：10:00～16:30

場所：那覇市職員厚生会館ホール

形式：講義&解説&ワークショップ

学校教員、朗読会会員、県職員

## 実施結果

参加者 **21** 人

## アンケート結果

本事業を通して平和への理解が高まった  
(とても高まった・高まった)

**100%**

## イベント内容

- あいさつ・メッセージ  
川満孝幸 副参事  
(沖縄県知事公室 平和・地域外交推進課)
- 朗読の基礎講座  
仲村美涼 アナウンサー (琉球放送)
- ORBC朗読会の紹介  
三原楓花 アナウンサー (琉球放送)  
仲村美涼 アナウンサー (琉球放送)
- 朗読プランづくり (グループワーク)
- 朗読プラン発表
- 振り返り



📷 講師の仲村アナウンサー、三原アナウンサー



写真：左上：朗読の基礎講座、左下：グループワーク  
右上：全体まとめ追加、右下：発表

## 講師の声

### 仲村美涼アナウンサー

語りたくても語れず、しかしそれでも手記などに書き起こし、平和を願った戦争体験者が多くいます。その思いと記憶を朗読という手法で新たに発信することはできないかと思い、私たちRBCアナウンス室はこれまで10年活動を行ってきました。そのノウハウを今年も少しでも多くの方へ届けられればと、担わせていただいた平和朗読講習会。参加者からさまざまな沖縄戦における視点を私たちも学び、全員で平和の願いを新たにできた時間だったのではと感じています。

朗読は物語を深く読み込み、相手にどう伝わるかを模索しながら自分の声に思いを乗せる表現技法です。これは、私たちが戦争体験者から記憶というバトンを受け取り、学び、次世代へとつないでいくプロセスと似ています。戦後80年の今年、平和朗読活動をより多くの人とともにしたい、それが私にできる平和への祈りだと信じて、取り組みたいと改めて思いました。

### 三原楓花アナウンサー

朗読会后、参加者と話すタイミングがあった。その中で、ある参加者は慰霊の日前後で行う朗読会には娘と一緒に参加するようにしているとおっしゃっており、またある参加者は朗読を聞いてそのときの情景が思い浮かんだ。涙がこぼれそうになる場面があったと話してくださった。比較的、親世代以上の参加者が多かったが、朗読を聞くことで平和への理解を深め、想いを馳せたい、祈りを捧げたいという気持ちがあることがわかった。また、この私たちの活動が平和について親子で一緒に考えることのきっかけになっているのではないと思う。

さらに、戦争に動員された父親の話や聞き取り調査を基にしたトークセッションなどがあったことで、戦争の実情をより伝えることができ、内容に深みが出たと感じる。伝えるという私たちの活動を通して、少しでも多くの世代の人が考えるきっかけになれるような活動にしていきたい。

## 参加者の声

- 講師の方の場の創り方や、それぞれの参加者の発表はすごく良かったです。沖縄戦を伝える表現の多様さについて学びました。
- 発声方法や滑舌などプロの技術を噛み砕いてわかりやすく教えていただけて、とても勉強になりました。RBC朗読会は涙なしには聞くことができませんでした。朗読劇の色々なアプローチ方法があると知り、可能性を感じることができました。
- 題材理解が一番大切だと感じた。戦争に関すること、作者の思いなど、バックグラウンドをしっかり持って、文を声にのせたいと思う。機会があれば朗読会などに参加して読んでみたいと思った。美涼さんの朗読に感動しました。ありがとうございました。

届けた、うむい(思い)

沖縄県の平和事業を紹介するパネルや、来場者からいただいた平和のメッセージを展示しました。平和に関するクイズに答えてくれた方には風船をお配りしたり、平和をテーマにした絵本を多言語で朗読するなど、ブース内にて色々な催しものを行いました。多くの方々にご来場いただきました。



## 第2章 平和絵本読み聞かせ・パネル展示 おきなわ国際協力・ 交流フェスティバル2024

日時：2024年11月24日（日）

時間 10：00～17：00

場所：JICA沖縄センター

形式：ブース内にて対面実施

実施結果

参加者

約 **900人**

おきなわ国際協力・  
交流フェスティバル  
2024内にて実施

国際協力フェスティバルの催しであるため、国際色ある取り組みを重視しました。9月21日（土）実施の平和朗読講習会（17ページご参照）参加者による平和朗読として、海外の絵本の読み聞かせを実施しました。平和のパネル、メッセージボードの前での発表で、多くの参加者が足を止めて各国の絵本に耳を傾けました。日本語、うちなーぐち、英語、ベトナム語、それぞれの国の母語による読み聞かせとなりました。



① 「What is Peace?  
（平和ってどんなこと?）」  
読み手：ヘレン・フォク



② 「Chuyên Bay Hạnh Phúc  
（ハッピー・フライト）」  
読み手：グエン・ド・  
アン・ニエン



③ 「いただきます」  
読み手：磯崎主佳



## イベント内容

- 平和のメッセージ
- パネル展示
- 平和クイズ
- 風船配布
- パネル展示ブースでの  
絵本読み聞かせ

## 平和メッセージ

フェスティバルでは、鳩型の紙に平和への思いを書いて、壁に貼っていただきました。寄せられたメッセージの一部を紹介します。

- 相互理解、受容の輪
- 誰でもやさしくしてやさしくされることが  
当たり前の世界になりますように
- 一人一人が思いやりの気持ちでみんなHAPPYに
- 平和な日々が続きますように！
- 沖縄から平和を！
- Tolerancia a las diferencias (スペイン語)  
違いを許容しよう
- We can not fight at here (英語)  
ここで争うことはできない

# まるごと1日平和 ～戦後80年に向けて考えようスペシャル～

2024年11月19日（火）朝から夕方までの番組において「平和」を共通のテーマにラジオ放送を行った。

## リスナーさんから届いた 平和を想うメッセージ

### リクエスト曲も 平和ソング

各番組でみなさんからリクエストされた  
平和ソングをご紹介します。

- ♪ 琉球愛歌/MONGOL 800
- ♪ 地球儀/米津玄師
- ♪ 平和の鐘が鳴る/サザンオールスターズ
- ♪ 島人ぬ宝/BEGIN
- ♪ 福笑い/高橋優
- ♪ 島唄/THE BOOM
- ♪ Imagine/John Lennon
- ♪ 平和の琉歌/ネーネーズ
- ♪ Love & Peace Forever/TRF
- ♪ 島人ぬ宝/BEGIN
- ♪ 時をこえ/HY
- ♪ 若者口説/徳原清文
- ♪ 月桃/国吉なおみ
- ♪ いのちの歌/竹内まりや
- ♪ We Are The World/USA for Africa
- ♪ 平和の願い/玉城安定民謡研究会

年々、沖縄戦を語り継ぐ人たちが減っていく中、尊い命が失われた戦争を忘れてはいけないし、二度と起こしてはいけないことを後世に受け継いでいかなければいけないと思う。それが私たちの責任だと思う。

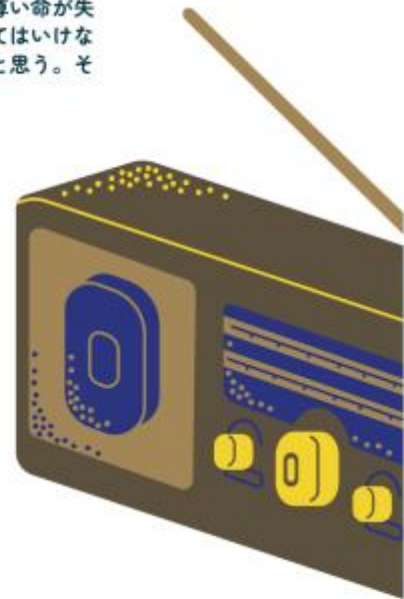
私は民謡が大好きで、番組を楽しみにきいています。その大好きな民謡が聞けるのも平和だからですね。また、平和の思いがこもった歌が多いのも沖縄だからかなと思います。

世界平和を祈ってリクエストします。  
世界が平和な世の中になりますように。

平和について考えること。その第一歩はやっぱり「知ること」かもしれませんね。沖縄のラジオを通し、たくさんの方の考えることを与えてくれたように思います。わからない、だからやらない、ではいつまでたっても前に進めないですね。ちょっとだけでも知ること、そこから平和の第一歩が始まると思いますよ

（6月23日の沖縄全戦没者追悼式で「平和の詩」を発表した）仲間友佑さんの朗読は凄く思いました。改めて平和の2文字の重さを考えさせられました。

若い方達も頼もしいです。宝ですね！



## 平和についての想うこと

### 『アップ!!』

仲村美涼 / ナガハマヒロキ



「お互いを尊重し対話する」  
「相手の人生を想像すること」

### 『MUSIC SHOWER PLUS+』

くだかまり / 知念だしんいちろう



「愛」  
「色があって 味を感じて  
笑い合えること」

### 『具志堅ストアー』

具志堅将司 / 棚原里帆



「バカ話して笑える時間」  
「優しい世界が広がりますように」



7:00-9:53

『アップ!!』

仲村美涼  
ナガハマヒロキ

10:00-13:50

『MUSIC SHOWER PLUS+』

くだかまり  
知念だしんいちろう

14:00-15:40

『具志堅ストアー』

具志堅将司  
棚原里帆

16:00-17:00

『民謡で今日拝なびら』

前川守賢  
よなは徹

17:00-20:00

『わんDAY』

玉城美香  
もーりー

## リスナープレゼントは 「平輪ちんすこう」

メッセージを採用された人へ送るリスナープレゼントに抽選で  
社会福祉法人 若竹福祉会の平輪ちんすこうをプレゼント。  
「世界が平和でありますように」の想いが込められています。



世の中が平和でありますように・・・  
平和を願いながらラジオを聴いています。

夫のいびきがうるさくても、まるで子守歌のよ  
うに、ぐっすり眠れるので、こんな日常が「平  
和」だなぁ、と思っています。ラジオで鼻歌を  
聞いて、笑っているのも、平和だからですね♪  
世界が「平和」で、「愛」と「笑い」に包まれ  
ますよう!! 今日楽しく聞いてますよー♪

おばあは戦争で足の指を3本失ってました。自  
らの失った指を見せて戦争を知らない若者や子  
供たちに戦争の悲惨さを語ってましたね。おじ  
いのは兵隊として戦時中にいましたが、決  
して体験した事を話すことはありませんでし  
た。ただ、僕が子どもの頃に、おじい兵隊と  
して出兵する日の写真があって、それを見た時  
に「これ、おじい?カッコいい」って言ったら  
「そうか〜?」と悲しい顔をした子どもなが  
らに覚えてます。自らのケガを見せて語り部に  
なったおばあ。決して戦争の話をしなかったお  
じい。2人の思いを今でも想像したりします。

いつまでも、ラジオを楽しめる世であってほしいです。

はがき、メッセージ、Youtubeなどで  
289件のコメント・曲のリクエストを  
いただきました

その他、Xなどでもコメントをいただきました。

## パーソナリティのみなさんにも聞きました

『民謡で今日拝なびら』

よなは徹 / 前川守賢



「世界中に歌声が響く1日が  
やって来ますように」  
「子供達の未来に笑顔のある平和  
世界中の笑顔をお願いします」

『わんDAY』

もーりー / 玉城美香



「世界の中が平和を笑顔に  
包まれますように」  
「あたりまえの毎日に  
感謝できること」

# 沖縄県立中部農林高校×ハワイ沖縄県系人 平和オンライン交流会

## 第2章



### イベント概要

日時：2024年12月20日（金）

時間 12：20～13：10

場所：中部農林高校

形式：オンライン開催

### 実施結果

イベント参加者

24人（ハワイ）

35人（沖縄）

中部農林生徒・教員含む

### 届けた、うむい(思い)

沖縄県立中部農林高校福祉課の生徒さんとハワイ在住の沖縄県系のみなさんをオンラインでつなぐ交流会を実施しました。今回の交流会の目的は、中部農林高校福祉課のみなさんが取り組んでいる「海から豚がやってきた」ワークショップをハワイのみなさまに紹介することでした。戦後、荒廃した沖縄を救うために、ハワイ県系人の方々が食料や衣服など、さまざまな物資を船で届けてくれました。その中でも、生きた豚を550頭とどけた歴史は有名なストーリーとして語り継がれてきました。

中部農林高校福祉課の生徒は、自分たちができる地域貢献活動として「海から豚がやってきた」を伝える授業プランを開発し、うるま市内の小中学校にて計19回、出前授業を実施してきました。

今回は、そのストーリーの発祥の地であるハワイとつながり、高校生の授業をオンラインでハワイの沖縄県系の方々にお届けしました。

### 「海から豚がやってきた」記念碑

沖縄戦で荒廃した沖縄では、作物を育てる土地や家畜などの食物も失われ、苦しい状況におちいりました。その光景を見たハワイ2世の比嘉太郎さんは「島に人影なくフル（昔の豚小屋）に豚なし」と報告しています。故郷の沖縄を救うべく、ハワイの沖縄県系移民たちは、募金を集め、550頭の豚を購入しました。そして、その豚を生きたまま船で沖縄に輸送しました。

沖縄に届けられた550頭の豚は、4年後には10万頭にまで増え、戦後の沖縄の食文化を支えました。その恩を忘れることなく、後世に伝えるために、豚が到着した場所のうるま市では記念碑が建立されました。





## イベント内容

事業説明・挨拶

中部農林高校生によるワークショップ

- ①写真クイズ
- ②「海から豚」のストーリー紹介
- ③ふりかえりクイズ
- ④手話ソング

意見交換・感想交流

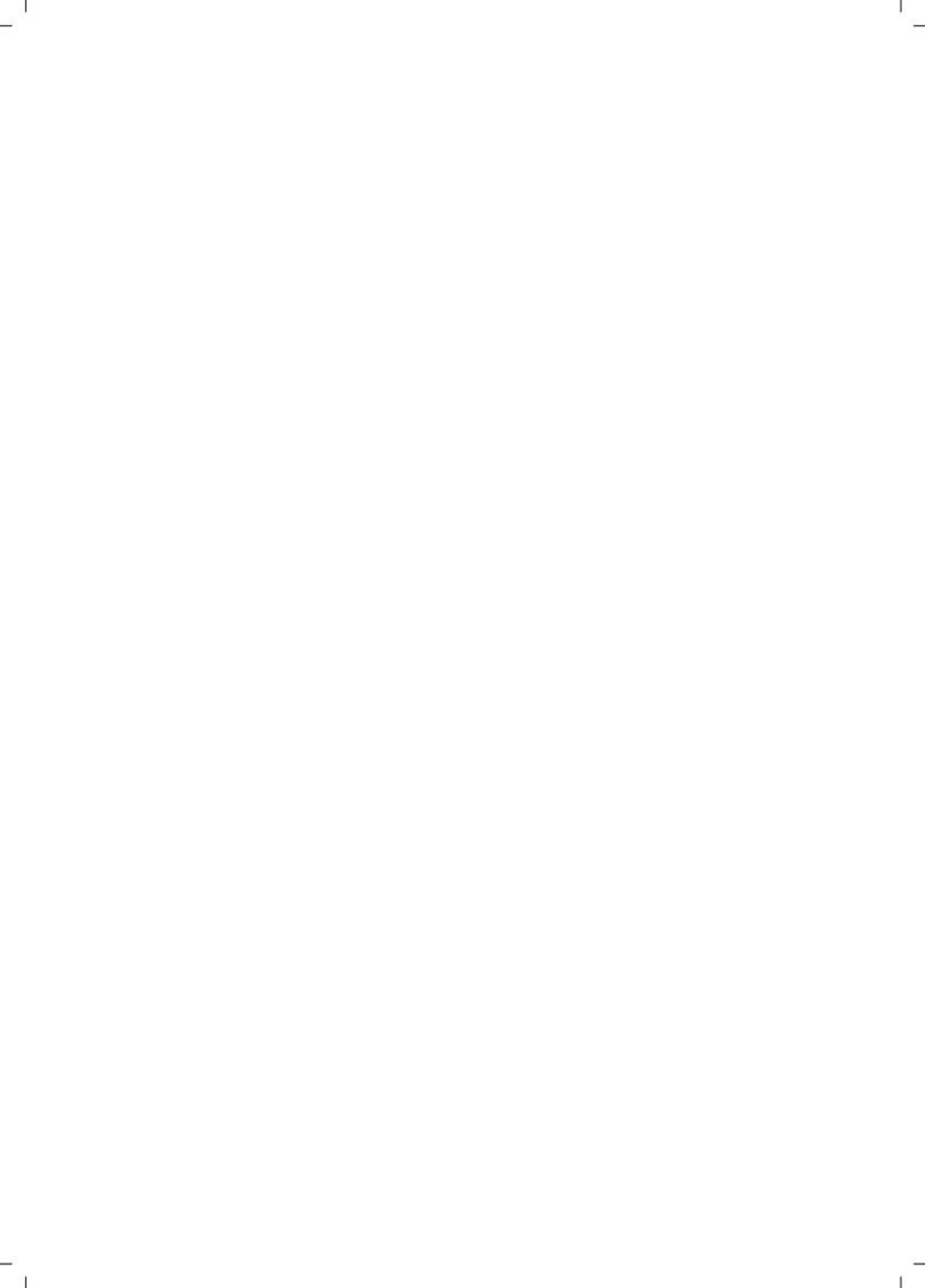


## 参加した高校生の声

- 発表を聞いて更にハワイの方と沖縄との繋がりを知れてめちゃくちゃ良かったです。
- 国を越えての学びは自分たちにとって大きな成長に繋がったと思う。
- 今回、ハワイの人との交流を通してこれまで海ぶたを調べてきた知識と今日の気づきが今後にかせるんだなと思いました。

## 参加したハワイの方々の声

- 高校生の研究プロジェクトがライブパフォーマンスに変わったものを見てよかった。手話のダンスは若い人が関心を持ってみてくれるね。
- 戦争の悲惨さや、わたしたち人間がどう協力し、助け合ってこの悲劇を乗り越えられるのかを、生徒たちや先生方が（ワークショップを通して）表現してくれました。



### 第3章 シンポジウムを通して県外へ発信

---



沖縄のことを知ってもらうと同時に、全国の皆さまとの戦争や平和を考える時間を設けました。



届けた、うむい(思い)

平和を希求する「沖縄のこころ」を信じ、県内外の皆さまとともに平和の実現に向け、何ができるか考える場となりました。前半では、宮沢和史さんの「島唄」に込めた沖縄戦や平和への思いや決意をお話しいただきました。後半では、玉城デニー知事はじめ、平和構築や沖縄戦の継承活動に取り組む方々をパネリストとして迎え、それぞれの経験や思いを共有しました。



## 「沖縄のこころ」 平和啓発シンポジウム

日時：2025年1月19日（日）

時間：16:00~19:00

場所：JICA地球ひろば（東京都新宿区市谷本村町10-5）

共催：独立行政法人国際協力機構（JICA）

形式：基調講演、パネルディスカッション

参加：319人（会場191人 オンライン参加128人）

ライブ配信動画総再生回数1831回 ※2月26日時点

### 実施結果

参加者 **319人**

#### アンケート結果

本事業を通して平和への理解が高まった  
(とても高まった・高まった)

**88.4%**

### 第3章

#### イベント内容

オープニングアクト：エイサー演舞／東京都中野区新風エイサー

第1部：基調講演 うたらな平和

「この島に永遠の平和を～島唄に込めた思い～」

・宮沢和史（歌手）

第2部：パネルディスカッション 平和をつなぐ対話の場

「沖縄のこころが運ぶ平和の願い～保存から次世代継承へ～」

・玉城デニー（沖縄県知事）

・普天間朝佳（ひめゆり平和祈念資料館 館長）

・小向絵理（JICA国際協力専門員）

・内山直美（豊見城市立豊崎中学校 教頭）

司会：仲村美涼（琉球放送アナウンサー）

展示：「ひめゆりの沖縄戦」／ひめゆり平和祈念資料館

「カンボジアとの博物館連携について」「沖縄平和賞」／沖縄県

物販：沖縄物産展／沖縄企画ユンタクヤ



# 第1部 うたらかな平和

「この島に永遠の平和を～島唄に込めた思い～」



## ◆宮沢和史さん 基調講演（要約）

### 沖縄との出会いと戦争の爪痕

今日は「島唄」についてお話しします。僕は山梨県出身ですが、沖縄とは深い縁があります。僕が沖縄に興味を持ったのは、沖縄に行ってからではなく、沖縄民謡との出会いでした。マルフクレコードの民謡集を聴き、その美しさと独特の響きに心を奪われました。その後、実際に沖縄へ行き、民謡や文化を学ぼうとしましたが、目に映るのは戦争の爪痕ばかりでした。空港の売店には戦争の写真集が並び、国際通りには米軍の払い下げ品を扱う店がありました。当時、戦後45年しか経っておらず、沖縄戦の記憶はまだ生々しかったのです。

### ひめゆり平和祈念資料館で知った沖縄戦の現実

沖縄の文化や音楽を学びたくて訪れたはずなのに、そこに広がっていたのは戦争の記憶でした。僕は「沖縄戦を知らなければならない」と強く感じ、糸満市のひめゆり平和祈念資料館を訪れました。そこで戦争体験者の方々の話を直接聞き、自分の無知を痛感しました。沖縄戦では4人に1人が亡くなり、学徒隊の少女たちは傷ついた兵士の看護をしながら戦場をさまよひ、最後には見捨てられました。日本兵に騙されて命を落とした人もいれば、アメリカ兵に助けられた人もいた。「どうして私は生き残ってしまったのか」という生存者の言葉が胸に突き刺さりました。一人ひとりにそれぞれの戦争があり、それを簡単に総括することはできないと感じました。

### 「島唄」に込めたメッセージ

22～23歳だった僕は、沖縄戦のことをほとんど何も知りませんでした。20万人以上が亡くなり、戦場になった理由も、日本の戦後復興が沖縄の犠牲の上に成り立っていることも知らなかった。資料館の出口で「東京に帰ったら歌を作ります」とアンケートに書き、自分への誓いとなりました。

「島唄」は、沖縄戦の悲劇を直接的に描くのではなく、ダブルミーニングを用いることで多くの人に伝わるようにしました。「でいごの花が咲き 風を呼び 嵐が来た」は、アメリカ軍の上陸を指し、

「ウージの下で千代にさよなら」は、サトウキビ畑の下で起こった悲劇を表現しています。「くり返す悲しみは 島渡る波のよう」は、琉球国が中国との冊封体制のもとで成り立っていたところへ、1609年に薩摩藩が攻め入り、その後琉球藩となり、沖縄県になったという歴史を指しています。

Bメロでは、あえて琉球音階を使わず、日本の軍国教育によって多くの命が犠牲になったことを表現しました。

### 「島唄」を歌わなくていい日が来ることを願って

リリース後、沖縄の人々から感謝の声をいただく一方で、「ヤマトンチュが沖縄を歌うべきではない」という批判も受けました。特に沖縄の音楽界からの反発はつらかったですが、それでも歌い続けました。時間が経つにつれ、沖縄の音楽界の重鎮たちが理解を示してくれるようになりました。

また、ある日、ひめゆり平和祈念資料館の前でバスガイドの方に「私は毎日修学旅行生に『島唄』を歌っています。平和を願う歌として紹介していますが、正しいですか？」と聞かれ、「その通りです」と答えました。この出来事は大きな励みになりました。

30年以上歌い続けていますが、沖縄の問題は今も解決していません。基地問題も変わらず、戦争を知らない世代の政治家が増えています。しかし、僕が望むのは「島唄」を歌わなくてよい日が来ることです。沖縄に本当の平和が訪れ、誰もが安心して暮らせるようになったとき、「島唄」は役目を終えます。その日が一日でも早く来ることを願っています。

## 第2部 平和をつなぐ対話の場

「沖縄のこころが運ぶ平和の願い～保存から次世代継承へ～」



玉城デニー氏

小向絵理氏

普天間朝佳氏

内山直美氏

司会：仲村美涼氏

◆パネルディスカッション（要約） ※紙面の都合上、大幅に要約しております。詳しい発言内容などは動画でご確認ください。（30ページの右下のQRコードからご覧いただけます）

### 玉城デニー 沖縄県知事

戦後80年に向けての思いについてお話しします。沖縄は1400年代から琉球王国として独自の文化を育みましたが、明治政府によって沖縄県となりました。多くの県民が移民として海外へ渡り、その後、第二次世界大戦では住民を巻き込んだ地上戦の場となり、住民の4人に1人が犠牲となりました。終戦後も27年間米国の統治下に置かれ、人権が大きく制限されるなど、筆舌に尽くしがたい経験をしてきました。この歴史の中で培われた沖縄のこころは、戦争を否定し、平和を求める精神へとつながっています。

県では、平和行政の一環として「平和の礎」を建立し、国籍や立場を問わず沖縄戦などで亡くなった方々の名前を刻み続けています。また、沖縄県平和祈念資料館では、住民の視点から沖縄戦の実相を伝える展示を行い、平和教育の拠点としての役割を果たしています。資料館は2024年から3年間かけて大規模なリニューアルを行う予定です。沖縄平和賞は、アジア太平洋地域で平和構築に貢献した個人・団体を表彰するもので、第1回受賞者は中村哲さんとベジャワール会でした。また、「ちゅううちなー草の根平和貢献賞」は沖縄県内の社会貢献活動を評価するものです。さらに、韓国・濟州島との連携や、カンボジアの地雷対策センターとの協力も進めています。

戦後80年を迎え、戦争体験者が減少する中で、沖縄戦の教訓を次世代に伝えることが重要です。戦後80周年平和祈念事業では、国連関係者を招いたシンポジウムや文化芸術イベントを開催し、県民が平和を考える機会を創出します。沖縄県ではこれからも平和を希求する「沖縄のこころ」を広く発信してまいります。

### 普天間朝佳 ひめゆり平和祈念資料館 館長

私は資料館開館と同時に採用され、元ひめゆり学徒の皆さんとともに活動してきました。2018年には、初の戦後生まれの館長として就任しました。

沖縄戦は太平洋戦争の末期に日米両軍の決戦場となり、90日以上にわたる激しい地上戦で20万人以上が亡くなりました。そのうち61%が沖縄県民で、県民の4人に1人が命を落としました。戦場では、親が子を捨てて逃げたり、泣き声を恐れて母子が壕から追い出されることもありました。住民の集団自決も多発し、父親が家族を手にかける悲劇も起こりました。また、日本軍による住民の強制排除や食糧の略奪、スパイ容疑による処刑など、人間が人間でなくなる状況が生まれました。

戦争では一般住民も動員され、男子生徒は14～19歳で爆弾運びや壕掘り、銃を持たされることもありました。女子生徒は15～19歳で野戦病院に動員され、負傷兵の看護を担いました。その中には沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の生徒で構成された「ひめゆり学徒隊」もあり、陸軍病院の壕内で負傷兵の世話をしました。戦闘が続く中で、240人のうち136名が命を落としました。

生き残った学徒たちは、友人を失った罪悪感に苦しみ、戦後長らく戦争体験を語るができませんでした。しかし、戦争の記憶が風化していく中で、戦争の実相を後世に伝えるため、ひめゆり平和祈念資料館を設立しました。1989年の開館以降、生存者たちは来館者に語りかけ、戦争の実相を伝える活動を続けてきました。現在は戦後世代の職員がその役割を引き継ぎ、資料館のリニューアルを含めた新たな取り組みを進めています。

## 小向絵理 JICA国際協力専門員

JICAでは「恐怖と暴力のない平和で公正な社会」を目指し、紛争後の社会で「誰一人取り残さない復興開発」を推進しています。その一環として、住民同士や住民と行政の信頼関係の構築、長期化する紛争による難民や避難民の自立支援、地雷や不発弾対策支援などを行っています。

カンボジアは1970年から1998年まで紛争に巻き込まれ、各国が埋設した地雷が多数残っています。カンボジア地雷対策センター（CMAC）は設立当初、年間10平方キロメートルの地雷除去しかできませんでしたが、現在は約30倍のスピードで進めており、JICAも支援を続けています。

2012年、CMACの長官が沖縄の平和祈念資料館を視察し、カンボジアにも同様の施設が必要だと考え、2017年に地雷対策平和博物館を設立しました。しかし、博物館運営の専門知識が不足していたため、2022年にJICAの支援で沖縄県立博物館美術館と平和協力センターの専門家が現地で助言を行いました。現在、CMAC職員が沖縄で研修を受け、平和博物館の運営について学んでいます。

コロンビアも長年紛争の影響を受けており、避難民や地雷の問題を抱えています。2019年から2022年まで、コロンビアの教育省職員や教師20人が沖縄で平和教育研修を受け、帰国後に200人規模のセミナーを開催しました。さらに2023年と2024年には全国規模のネットワーク会議を実施し、沖縄の平和教育がコロンビア国内で広がりを見せています。今年もコロンビアから10人が派遣され、沖縄で研修を受ける予定です。

このように、沖縄の平和の取り組みは、カンボジアやコロンビアをはじめとする国々で大きな影響を与えています。

## 内山直美 豊見城市立豊崎中学校 教頭

私と仲間の教師たちは、沖縄戦や米軍統治、本土復帰など、沖縄の戦前戦後の象徴的な日を取り上げた特設授業を実施してきました。2016年からは「世界のウチナーンチュの日」を加え、1年間の学びの締めくくりとしています。この実践のきっかけは2011年のブラジルでの教師海外研修でした。県系人との出会いを通じて、沖縄移民と平和学習の関係を実感し、参加型学習の手法を取り入れることを決意しました。

2012年、沖縄県教育委員会が本土復帰40年に合わせて平和教育を強化する方針を示し、私たちも復帰の授業を実施しました。新聞にも取り上げられ、復帰前後の母子手帳の比較や、復帰を経験した教師の体験談を取り入れ、生徒が家庭で復帰について聞き取る課題を設定しました。その後、「なぜ沖縄の人々は復帰を強く望んだのか」という生徒の疑問をもとに、1952年4月28日のサンフランシスコ講和条約発効日を学ぶ特設授業を開始しました。

沖縄戦の授業では、資料館や戦跡を活用し、戦争の経緯を学ぶことを重視しました。特に「15年戦争のどの段階で止めることができたのか」という問いを立て、沖縄戦と戦争の流れを結びつけて考えさせました。地域の戦跡訪問を通じて、生徒たちは自分の住む地域と沖縄戦とのつながりを再認識しました。

また、「世界のウチナーンチュの日」を機に、沖縄移民学習を特設授業に組み込み、「なぜ、世界のウチナーンチュは沖縄を誇りに思うのか」というテーマで授業を展開しました。生徒が主体的に学び、沖縄を通して日本や世界を考える機会を提供することを目指し、開発教育の参加型学習の手法を活かした授業改善を続けています。

### ◆参加者の声

- 平和について改めて考える機会となり、戦争を知らない世代の私たち親世代が子へ孫へどうそれについて伝えていくか、伝えていく義務さえあるのだと感じました。黙っては何も始まり、傍観しているだけでは真の平和は訪れない。私たちが出来る事は小さい事であっても一人ひとりの力で戦争のない平和な世界を現実とする為に、私たち大人が子へその道筋をつくり歩いていけるような社会作りも必要だと感じるシンポジウムでした。
- 沖縄県が取り組んでいる平和教育にとっても感心しました。そのような平和教育が、日本全国でも行われるよう発信していただけたら、平和な未来へもっと近づけるのではないかと思います。
- 慰霊の日に沖縄に行きたいと思っています。これからも沖縄が世界平和のために発信し続けるリーダー的存在でいてください。私にできることも考え続けます。
- 4/28.6/23など区切りの日にメディアなどで発信して、自分の子供にも戦争の悲惨さを知ってもらう機会を増えていけばいいなと思います。家族を連れて沖縄に行きたいです。
- 沖縄に関わる方が具体的にどのような取り組みをしているのかを聞いて良かった。

関連情報



JICAとCMACの  
活動紹介動画



ひめゆり平和祈念  
資料館 HP



宮沢和史  
オフィシャルサイト



本シンポジウムの模  
様をアーカイブ配信  
にてご覧になれます



## 第4章 平和教育指導者養成

---



次世代への継承のためにも、教材やカリキュラム開発が重要であると考え、教育者の学びの場づくりを大事にしました。



# 平和教育指導者養成講座

～80年前の首里・那覇を学ぶフィールドワーク 沖縄戦と教育～

## 届けた、うむい（思い）

対馬丸事件、10・10空襲から80年を迎える。悲惨な地上戦が繰り返される前の沖縄にも現在を生きる私たちと共通する日常があったが、子どもたちを含む一般市民が徐々に戦争に巻き込まれていくことになる。集団疎開や空襲、学徒動員など米軍上陸間近の沖縄の教育現場の状況を、那覇市内にある資料館、博物館、戦跡を通して教職員の皆さんに共有する。

### イベント概要

日 時：2024年7月24日（水）～7月25日（木）  
時 間：10：00～17：00  
場 所：対馬丸記念館、養秀会館など  
形 式：フィールドワーク、ワークショップ  
参加者：34人（大学生、学校教員、学芸員、会社員）

### 平和教育指導者養成講座 内容

- 1日目：7月24日（水）学童疎開・戦前の那覇を学ぶ
  - ①戦前那覇フィールドワーク  
三重城見学 那覇市歴史博物館見学
  - ②お昼休憩
  - ③対馬丸記念館フィールドワーク・見学  
旭ヶ丘公園散策 海鳴りの塔 高台  
新聞人戦没者慰霊塔 小桜の塔  
対馬丸記念館（解説：平良次子館長）
  - ④感想共有・振り返り
- 2日目：7月25日（木）学徒動員を学ぶ+教材作成
  - ①一中戦没学徒隊資料室見学  
1945以前の教育現場、学徒動員の過程生徒・教諭、手紙、遺書、戦時中の流れなど（案内：大田光さん）
  - ②お昼休憩
  - ③教材・事例紹介、振り返り  
（大田光さん、内山直美先生）
  - ④一中健児之塔、壕など見学



イベント参加者募集のチラシ

### 講師紹介



大田光（おおた ひかり）さん  
一中学徒隊資料室解説員

学生の時に沖縄戦や学徒隊に出会い、現在は資料室で解説をされています。写真や遺書など学生個人や学校の雰囲気などに焦点を当てた解説をしていただきました。

### 成果

平和教育指導者養成講座参加者 **34人** 那覇市における戦跡フィールドワーク2日間の累計参加人数  
・教育関係者、学芸員とのネットワークが形成された

アンケート結果  
本事業を通して平和への理解が高まった  
（とても高まった・高まった）

数字 **100%**